

## サークル、課外活動での私たちの取り組みです

### 愛知BBS会

子ども発達学科保育専修4年 吉田 文（よしだあや）  
京都府・農芸高校出身

私は、愛知BBS会というサークルに所属し活動しています。活動内容は、名古屋市の児童相談所から委託された子ども達とキャンプに行ったりレクリエーションを楽しんだりしています。今年の10月には運動会が行われました。チームが一致団結し、大縄跳びやリレーなどを楽しみました。皆で声を合わせて跳んだり、仲間を応援したり、応援してもらったりできる事がとても素敵だと感じました。

また、私はこのサークルで二年間、ある女の子の担当をさせて頂きました。振り返ると、その子への関わり方で悩みが尽きませんでした。とても充実した二年間だったと思います。その中で印象に残っているのが、キャンプでのトーチ発表に向けて、曲を選んだり振り付けを考えたりして、トーチの練習を頑張った事です。一緒に一つの事に取り組む充実感や、トーチを発表した達成感を味わう事ができて本当に良かったと思います。

また、同じ目標を持つ仲間や先輩、後輩に出会えた事にも感謝しています。



### アンビシャス・ネットワーク

心理臨床学科2年 橋口大知（はしぐちだいち）  
愛知県・名古屋大谷高校出身



私達、アンビシャス・ネットワークは子どもの貧困解決に向けた学習支援活動を行っています。主な活動は半田市在住の様々な事情で塾に通うことが出来ない中学1年生から3年生を対象に大学生が無料で勉強を教える“無料学習塾”を開いています。この活動の背景にある“子どもの貧困”とは、子どもが経済的困難と社会生活に必要なものの欠乏状態におかれ、発達の諸段階における様々な機会が奪われた結果、人生全体に影響を与えるほどの不利を負っていることを指します。

子どもは教育を受ける権利を平等に持っています。私達は社会の問題で自分の夢を諦めて欲しくないという気持ちを持って、2012年7月から中学生37名、大学生登録者数52名で本格的に活動を開始しました。将来教師を志望している学生も多数在籍しており、大学では学ぶことが出来ない子ども達との関わり方を実際に関わる中で学ぶことができます。私は、社会は変えられると信じています。

私達の活動は社会からも注目されており、2012年5月5日の朝日新聞、2012年10月1日中日新聞で活動が紹介されました。大学生にだって出来ることは沢山あります。それはとても小さな力かもしれませんが、決して無力ではなく、小さな力の一つひとつがつながり合って大きな力になると信じています。子ども達と一緒に成長出来るこの居場所をこれからもより良くしていけるように努力していきます。

## わたしたちの先生を紹介します

### 三橋広夫（みつはし ひろお） 子ども発達学科教授

子ども発達学科初等教育専修4年 山岸美穂（やまぎしみほ）長野県・伊那西高校出身

三橋先生は、社会科教育論や歴史教育論（特に日韓の歴史教育）を専門としています。先生の講義のキーワードは、「なんで?」。先生は、1度の講義で何回「なんで?」と言うのか数えたくなるほど、「なんで?」と問いかけてきます。初めの方は、先生の「なんで?」攻撃にとまどいましたが、先生の攻撃のおかげで、自分の考えや友だちの考えをより深く知ることができる講義だったと思います。そんな先生の講義は、社会科が苦手な私でも、楽しいと思える魅力的な時間でした。三橋先生は、卒論のことで悩んでいる時にアドバイスをしてくれたり、クリスマスの日のゼミにケーキを買ってきてくれたり、とにかく温かい先生です。そんな温かい先生ですが、他の人とは違った考えや視点をもって、間違っているところはしっかり指摘してくれます。なので、毎回ゼミの時間が終わっても、先生と、日常のことから将来のことまでさまざまな話しをしてしまいます。三橋先生は、関われば関わるほど新たな魅力がでてくる…スルメのような先生です。なので、先生の魅力はここに書いただけでなく、まだまだあると思います。そして、そんなスルメのようなところが、何より先生の魅力だと思います。



### 大饗広之（おおあえ ひろゆき）心理臨床学科教授

心理臨床学科3年 奥村太一（おくむらたいち）長野県・日本福祉大学付属高校出身



大饗先生の特徴の一つとして挙げられるのが、臨床心理士ではなく精神科医である点があります。そのため、統合失調症や、解離などの切り口から引きこもりや、いじめや、自殺などの問題を考える際にとっても強い知識的なサポートをしてくれます。そして心理学的なアプローチだけではなく医療現場での経験を含んだ相手の意思や歴史などを汲んだアプローチ方法を教えてもらうことができます。また、昔からの歴史のある理論を重んじるだけではなく、時代の流れや文化などを踏まえた新しい考えなども取り入れた意見を持っています。そのため、大饗先生の話やそれまで鵜呑みにしていたような理論などの知識を実際今ある現実には当てはめてみることで、疑問点や問題意識を持つことができます。また、ゼミではメンバー一人一人の特性を把握していき、心理学的なアプローチとはどんなものかについて体感させてくれているように感じています。



### この号の主な内容

- 心理臨床学科が生まれ変わります  
～ふたつの専修～ 1
- 就活を決めた学生からのメッセージ  
中学校での教育実習 2
- 就活を決めた学生からのメッセージ  
子ども発達学専門演習ゼミ紹介 3
- サークル、課外活動  
私たちの先生を紹介します 4



## 2013年度 心理臨床学科が生まれ変わります～ふたつの専修～

### 心理臨床専修

戸外で思いきり体を動かして遊びたいけれど、安全な場所や時間的余裕がない子どもたち。他人を信じたいけれど信じるのが難しい大人たち。現代社会を取り巻く環境の変化は、大人にも子どもにも様々なストレスを与えているようです。2013年度からスタートする心理臨床専修では、さまざまな問題を抱えた人のこころを理解し、支援できる人になることを目指す学生たちを育てていきます。

学習上の魅力はといえば、まず演習科目が多いことがあげられると思います。心理支援のための各種実習や心理学の基礎実験、また心理データを扱う統計処理の演習もあります。これらの演習を通して着実に知識とスキルを身に付けることができるでしょう。また地域との連携による実践的な学習として、子ども発達支援室でのメンタルフレンドの活動や、教職・企業インターンシップ、さらに家庭裁判所、児童相談所の見学などを行うゼミもあります。専修を担う教員たちの専門は幅広く、心理学の基礎から応用・実践まで、幅広い知識とスキルを身に付けることができるカリキュラムも本専修の魅力の一つです。そして特筆すべきこととして、障害児心理専修とともに、学生一人一人の入学後から卒業までの状況をきめ細かく見守る指導体制は、心理臨床の精神ならではのかもしれません。学生の皆さんが想像する以上に、教員は学生を見つめているのです。1年生から4年生まで、学年ごとにゼミの内容は違いますが、担当教員とは接する時間も自然と長くなります。いろいろ語りあいたいものです。これらの学習を通して、医療・福祉施設や公務員（心理職）、教員、一般企業、大学院進学など様々な進路があります。学生生活で培ったものすべてが進路に生きてくると感じています。人とかかわらずに生きていく人はいません。本専修での人のこころについての学びは、社会で生きていくために大切なものが詰まっているといえるでしょう。

### 障害児心理専修

障害児心理専修と聞いてどんなことを学ぶところだろうと皆さんは感じるでしょうか。「障害児のことだけを学ぶところ?」…少し違います。心理臨床学科にある専修ですので、まずは「全般的な心理学の知識」つまり、心理学のいくつかの分野の基礎知識、心理学の考え方や研究方法、心理学から見た心の問題や対応についての理解などを学びます。そして、それに加えて「障害児についての知識」を系統立てて学習するのです。障害ってなんだろう。どういった特徴を持っていて、どういった支援が必要になるのだろうかなど、皆さんがそれぞれ考え行動できるようになるための様々な科目が用意されています。さらに、心理学的な視点から障害児を理解できる特別支援学校の先生を目指す人のために「特別支援教諭」の免許を修得するためのカリキュラムがあります。

もちろん、どれもこれまでの心理臨床学科でもやってきたことです。しかし、その経験の上に「障害児心理専修」を作ったことでより障害児心理について深くそして目指す領域の近い仲間たちとともに学べる環境が整ったと感じています。“新生”心理臨床学科の始まりです!



## 採用試験を突破した卒業予定学生から後輩へのメッセージ ①

### 公立保育園合格に向けての取り組みと思い



子ども発達学科保育専修4年 松島礼佳  
(まつしまあやか) 富山県・桜井高校出身

就職活動をするにあたって私がまず取り組んだのは自己分析です。保育の仕事といってもその選択肢は数多くあり、やりたいことが一つに絞れていない状態だったからです。これからの人生において、何を大切に生きていくか、10年、20年後にどこでどんな生活をしていきたいか、就活用のノートに全部書き出して考えました。そこから見えてきたの

が、「保育を一生の仕事にしたい、結婚・出産を経ても働き続けたい」「保育や子育て支援を通して、身近な地域の人と人をつなぎたい」という強い思いでした。はじめにこの作業を踏んだことで目的が明確になり、モチベーションを保って計画的に勉強できたのだと思っています。生活リズムは、朝型にすることで一日を有効に使えました。筆記試験の対策は、過去問や模試を解き、見直すことが中心でした。本番を想定して時間を計りながら解くと、より集中力が高まります。公立保育園は、筆記試験の勉強に加え、受験する自治体の研究も重要となってきます。私は自治体のホームページや広報、新聞などを利用し、福祉・教育分野をはじめ、行政、産業、人口、交通など幅広く情報を得ました。実際に訪れて、現場の保育士とお話することも大変おすすすめです。少しでも早い時期に本気になって取り組むことが、何よりの必勝法だと思います。

### 名古屋市の職員として働く

心理臨床学科4年 成澤彩音(なるさわあやね) 愛知県・光ヶ丘女子高校出身



私は福祉や人のところ、特に子どものところについて学びたいと思い、日本福祉大学の子ども発達学部心理臨床学科に入学しました。大学で様々なことを学ぶ中で自分の将来のことを考えた時、全ての人が幸せに生活するための仕事がしたいと思い、地方公務員の福祉職の受験を決めました。私が公務員試験のため勉強を始めたのは3年生からです。まだ授業やサークルそしてアルバイトもあったため毎日の勉強はできなかったものの、3年生の2月からは毎日図書館に通い開館から閉館まで勉強をしました。勉強は同じテキストを何度も使い、問題を繰り返し解くようにしました。また公務員に関するガイダンスには積極的に参加し、大学の先輩である現職員の方の合格体験のお話を聞かせてもらったり、試験対策の中で出会った友人と励まし合ったりして辛い時期を乗り越えてきました。8月に合格が決まった時は本当に嬉しくて、今まで辛かった勉強も頑張ってきたよかったです。そして支えてくれた両親や姉、友人達もとても喜んでくれてさらに嬉しかったです。4月からは名古屋市の職員として働くことになりました。この大学だから学べたこと、サークルの中で学べたこと、これらの経験を活かし春から働いていきたいと思っています。

## 子どもの言葉に助けられた教育実習

心理臨床学科4年 浅井俊博(あさいとしひろ) 愛知県・同朋高校出身



私は、地元の春日井市の中学校で、三週間の教育実習を行いました。正直私の教育実習は、課題がたくさん残った体験でした。実習が始まった当初、私は「子どもと一緒に授業ができる」「中学生はどんなことに疑問を持つのだろう」と期待に胸を膨らませ、社会科が嫌いな生徒でも「楽しい」と思えるような活動を多く入れようと、活動中心の指導案をつくり、担当の先生にも検討を依頼しました。しかし、実習生という立場もあって、中学生が社会科を学ぶことが「楽しい!」と思えるような活動中心の授業を行うことはできませんでした。そして色々な思いが入り混じりながら授業実習を行い、失敗を繰り返しながらも生徒に助けられながら、最後まで授業を行いました。自分自身の未熟さは自覚しながらも、自身がやりたいと思った授業で失敗したいと思っていた自分にとって、心残りの部分もある教育実習でしたが、それでも三週間苦しみながらも乗り越えられたのは、子どもたちに支えられたからです。特に実習最後の日に、生徒から「私たちが卒業する前にこの学校に戻ってきてね!」と言われたことは、僕にとって忘れることができない経験です。子どもたちの言葉を胸に秘めながら、一刻も早く「先生」になるために、これからもしっかりと学んでいこうと思います。

### 児童養護施設へのアプローチ

子ども発達学科保育専修4年 堀江美希(ほりえみき) 福井県・高志高校出身



私が福井県の児童養護施設『一陽』を知ったのは、ゼミの先生からでした。地元での就職を考えるときに教えてもらったのがきっかけです。その後、全国児童養護問題研究会に参加させてもらう中で、一陽の施設長から一陽設立の話を聞くことができました。話を聞いて、一陽という施設をもっと知りたいと思い、友達と一緒に施設に訪問させてもらいました。研究会で聞いたよりも詳しい話を聞くことができ、一陽で働きたいと思うようになりました。施設で退所者のアフターケアに取り組みたいと思っていたので、一陽がアフターケアに取り組んでいることと聞いて、と話してくれたことに強く心を惹かれました。

「顔を売る」という聞こえが悪いのですが、自分のことを知ってもらいたい、もっと施設の様子を知りたいと思い、夏休みにはボランティアに行かせてもらいました。話に聞くだけではなく、ボランティアとして施設の職員の方や子どもたちと関わると様々なことが見えてきます。児童養護施設は施設長の方針によって、施設の特徴が本当に変わります。自分が本当にここで働きたいのか、ということを考え直すいい機会でもあったと思います。施設保育士はとても難しい仕事だと思います。職員さんたちに一緒に働きたい、この人なら子どものことを考えた関わりをしてくれると思ってもらえたことが、内定につながったのだと思います。また、一緒に働きたいと思ってもらえて、とてもうれしいです。

### 幼稚園教諭になりたいという夢

子ども発達学科保育専修4年 石川徹(いしかわとおる) 愛知県・熱田高校出身



私が就職活動をどう進めたかということ、合同説明会や、園見学に多く行くなど、自分で色々動くことを重視しました。大学に送られてくる求人票だけでは、園の雰囲気や子どもの様子は分からないと思うので、積極的に動いて、気になった園は徹底的に調べることをオススメします。また、園見学では自分が気になっていることを質問するチャンスでもあり、遠慮しないで聞いてください。私は、男性教諭の勤続年数や今後の採用、園で力を入れていることの3つについては、見学に行った園全てで聞きました。私立幼稚園は園ごとに特色が全く違います。ここの園はいい園だと人伝えて聞いても、それが自分に必ずしも合うとは限りません。その意味でも、園見学というものは幼稚園就職活動の要と言えるので、絶対には手は抜かないください。最後に、これから就職活動を行う後輩たちに私から伝えたいことは、たくさん悩んで後悔しない選択をしてくださいということです。実は、私が幼稚園に就職しようと思ったのは4年生の5月であり、それまでは、企業の就職活動をしていました。しかし、幼稚園教諭になりたいという夢を捨てることはできず、友達や親に相談し、自分が本当にやりたいことは何なのかをもう一度考え、幼稚園に就職しよう決めました。就活は悩むことが本当に多いです。でも悩んだ分だけ納得のいく答えを見つけることができます。満足のいく就活をしてくださいね。

## 採用試験を突破した卒業予定学生から後輩へのメッセージ ②

### 教員採用試験を通して



心理臨床学科4年 山口真由子(やまぐちまゆこ) 静岡県・磐田北高校出身

教員採用試験合格発表の日。静岡県教育委員会のホームページで自分の受験番号を見つけた時、嬉し涙が止まらなかったことを覚えています。私は高校生の頃に特別支援学校教員になりたいと思い、日本福祉大学に入学しました。大学では教職の授業や、教育実習(高等学校・特別支援学校)、小学校での学習支援ボランティア等、教育について学べる全てが新鮮で刺激的でした。福祉と教育の関連性について学べたのも、本学ならではのと思います。また、実際に子どもたちの笑顔や涙を見る度に、先生になりたい!という気持ちが強くなっていきました。しかし、教員採用試験に合格することは難関と言われており、勉強中くじけそうになることもありましたが、私の夢はどんなに障害が重くても子どもの可能性を信じ、子どもと一緒に歩んでいく先生になることです。もしこの段階で自分が諦めてしまったら、これから先も子どもたちに夢や目標を持ってもらうことはできないと、弱気になる自分に喝を入れてきました。教員採用試験を通して、一つの事に一生懸命になれたことは私の中で大きな自信につながりましたし、自分の将来と真剣に向き合うきっかけともなりました。高校生の頃から憧れていた職業に就けることがとても嬉しいです。大学で学んだことを活かし、夢をもちながら新たなスタートをきりたいです。

## 子ども発達学部の専門演習ゼミを紹介します

心理臨床学科3年 堤健介(つづみけんすけ) 愛知県・知多翔洋高校出身  
心理臨床学科3年 重松佳奈(かさまつかな) 富山県・富山南高校出身

**磯部ゼミ**は地域づくりをメインとして、様々な取り組みや活動を行っています。内容としては、南知多町の師崎などの漁師の方を学校に招いて魚介類の調理方法を教えてもらいながらお話を聞きました。また、実際に師崎へ出向いて問題点などを探し、改善策等を、地元の方々と話し合いながら一緒に考えていきました。また、ゼミ合宿として、三重県の南伊勢町に行きました。南伊勢町では、漁業の体験をしたうえで漁業関係に携わっている方々に話を聞きました。また、南伊勢町の水産課の方や観光協会の方々にも話を伺いました。南伊勢町では、特産の鯛やミカンを利用して、様々なイベントなどを行い、観光スポットなどを盛り上げていくことに取り組んでいました。そして、観光とともに、住みよい町づくりとしてお年寄りはもちろん、若い人に住みやすい暮らしのためにどうしていくべきかを考えていきました。ゼミでは、南伊勢町で調査し、学んだことを、再び師崎の地域づくりなどに生かしていくという活動を行っています。



### 法務教官は少年に人生の楽しさを教える仕事

心理臨床学科4年 長谷川慧史(はせがわさとし) 長野県・伊那弥生ヶ丘高校出身



私が法務教官という仕事について知ったのは、大学の講義で司法福祉について学んだ時でした。講義のなかで、法務教官が少年たちに対し深い思いをもち、毎日指導にあっている姿を写したビデオを見ました。

一人一人の少年と、真摯に向き合う教官の姿にとっても感動したのを今でも覚えています。また、ゼミでの活動で、少年院の見学に行き、実際に現場で活躍する方からお話を聞き、一層、法務教官への憧れを強くしていきました。

日本福祉大学のOBの先輩方には現在、法務教官として活躍されている方がたくさんいて、就職試験の際には多くのアドバイスをいただき、無事合格することができました。少年院の見学で、見学を担当して下さった教官の方が、法務教官は少年に人生の楽しさを教える仕事だと言っていました。4年間の大学生活で学んだことはもちろん、友人たちと過ごした充実した毎日のすべてを活かして少年たちと向き合っていきたいと思っています。



子ども発達学科保育専修3年 石川史乃(いしかわふみの) 静岡県・掛川東高校出身

**勅使ゼミ**は、まず春休みの腹話術講習から始まります。それぞれが思い思いに作ったり買ったりしたパートナー(人形)を使い、現場で使える技を一から習得します。正直、初めは恥ずかしさが大きく、地声と裏声を使い分けて話し、なおかつ人形を操りながら、というのはとても難しいです。ですが、この講習を他のゼミ生と乗り越えたからこそ、早い段階で打ち解けられるというのも事実です。次に、授業が始まるいくつかのグループに分かれ、『子どもの発達とあそびの指導』の本を基に討論を繰り返します。ここでは、自分の意見や考えを明確に持ち、相手に伝える力が養われます。皆の前で発言する事が苦手だった子は、「それができるようになった。」そうでない子は、「いろんな意見に触れる事で、考えが深まった。」などと言っています。そして何より、勅使ゼミの一番の魅力は、仲が良いという所です。4月に行ったゼミコンには、先生を含め全員が参加しました。一人一人がやりたい事、学びたい事への意志や思いを強く持っているからこそ、本気でぶつかる仲間が集まり、高めあえるのだと思います。